

# 平成30年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

## 結城市 解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	与謝蕪村は、1742年（寛保2年）27歳の時、下総国結城（現在の結城市）の砂岡雁宕（いさおかがんとう）のもとを訪れ、約10年間結城地方に滞在しました。	3
2	白菜は、結城市内の農作物生産量が一番多い野菜です。茨城県は生産量・生産額ともに日本一の白菜の産地です。茨城県内でも八千代町に続き2位と多くの白菜を結城市で生産しています。	4
3	結城廃寺は、奈良時代の初めの西暦700年代前半に建立されましたが、900年代に一度焼失しました。しかし、鎌倉時代に再建されて、室町時代中頃までの700年間にわたり存続したと考えられている、古代から中世にかけての大寺院です。	1
4	長井市は山形県の南部にあり、1983年（昭和58年）7月に姉妹都市として提携しました。市の花であるアヤメはもちろん、「水と緑と花のまち・ながい」として、春から夏にかけて桜やツツジもきれいに咲きます。結城市では、5月下旬から6月下旬にかけて、山川不動尊あやめ祭りが開催され、約2,000株が見ごろとなります。	2
5	2017年（平成29年）8月5日にコワーキングスペース「yuinowa（ゆいのわ）」がオープンしました。市では地方創生施策としてIT分野の仕事創出や人材育成に取り組んでいます。	4
6	結城市の木に制定されている木は、「桑（くわ）」です。結城市の伝統にゆかりがあり、また、結城紬・養蚕業に深い関係がある桑は、市内に昔から多く植栽され、「紬の街」にふさわしい木であるということから結城紬とともに結城市の成長を願って選ばれました。	2
7	結城合戦（ゆうきかっせん）は、1440年（永享12年）室町時代に関東地方で起こった室町幕府と結城氏ら関東の諸豪族との間の戦いです。	3
8	かなくぼ体育館を会場としてバレーボール（少年女子）が開催されます。「翔べ 羽ばたけ そして未来へ」として、45年ぶりに茨城で開催される国民体育大会では「県民のみなさんを対象とする『デモンストレーションスポーツ』」の中で、「パークゴルフ」が結城市で開催されます。	1
9	城の内館（城の内遺跡）は結城城の南約3キロメートルにあるほぼ方形の居館跡で、初期の結城氏の居館だといわれています。	2
10	和太鼓集団の結城紬太鼓が2017年（平成29年）10月15日に奈良県で開催された国民文化祭に出場しました。それに伴い2017年（平成29年）8月2日には前場市長を表敬訪問しました。	4
11	タイ王国メーサイ市とは、2012年（平成24年）11月19日に国際親善姉妹都市となり、2017年（平成29年）の11月に盟約5周年を迎えました。メーサイ市とは農業分野や教育分野などで活発な交流を続けています。	2
12	水野忠邦は、唐津藩（佐賀県）、浜松藩（静岡県）の藩主であり、山川と直接関係がないようにも思えますが、実は、水野氏初代忠元が大坂夏の陣の功績により、三万石を与えられて初めて大名にとりたてられたゆかりの土地が山川の地です。	4
13	2019年に開催される茨城国体の結城市での大会を盛り上げる花を公募した結果、マリーゴールドに決定しました。大会期間中は全国から結城市を来訪される多くの方を、たくさんのお花でお出迎えします。	3
14	つむぎの日は4月24日です。1956年（昭和31年）4月24日に、本場結城紬「平織り」が重要無形文化財に指定された際の認定の日です。3月15日を結城市誕生の日、10月2日を結城朝光の日としました。	1
15	日本号、蜻蛉切（とんぼぎり）、御手杵（おてぎね）が天下三名槍といわれています。室町時代に結城家17代当主結城晴朝が作らせた。鞘（さや）の形が餅をつく杵（きね）に似ていることから「御手杵の槍」と呼ばれています。	3
16	ゆうき健康マイレージポイントカードは、16歳以上の結城市民が対象です。ポイントカードは健康増進センターで配布しています。平成29年度は約500人の方が参加登録し健康づくりに取り組みました。	2
17	1956年（昭和31年）4月24日に、結城紬の平織りが、国の重要無形文化財に指定されました。重要系文化財結城紬の保持団体である『本場結城紬保持会』は、「糸つむぎ」「餅（かすり）くくり」「地機（じばた）織り」の3つの工程に直接携わり、長年の経験を有する高度な技術を持った会員によって構成されており、今もお受け継がれています。	4
18	「きぬ名栗」は、鬼怒川流域の肥沃（ひよく）な土地で育てられた、絹ごし豆腐のような滑らかな食感と、栗のようなホクホクとした甘みが特徴のかぼちゃです。市では、結城ブランド認定品を活用して、結城市の魅力をPRしています。野菜としては他にも、結城産と有機栽培をかけたレタス「ゆうきくんレタス」や糖度が高く甘さが自慢のトウモロコシ「夏祭り」が認定されています。	1
19	結城の桐下駄は室町時代から、桐たんすは江戸時代から作り始められ、桐下駄は日本3大産地、桐たんすは日本8大産地の1つとして数えられ、共に国の伝統工芸品や、結城市の結城ブランドに認定されています。	3
20	江戸末期、はやり病が流行したとき、当時の殿様が病払いに民衆にふるまったのが始まりというゆで饅頭は、いまでも夏祭りにお供えして無病息災と五穀豊穡を願っています。そのもちっとした皮は小麦粉でできています。	2
21	民話の中で様々な化けてたくさんの悪さをした「九尾の狐」は、やがて「殺生石」となり触るものすべてを犠牲にしました。この石を打ち、災いから救った人が源翁（げんのう）和尚です。大きな金槌（かなづち）の「玄能・玄翁（げんのう）」の由来となったとされています。	4
22	結城秀康は、徳川家康の次男として生まれ、1584年（天正12年）に豊臣秀吉の養子となった後、1590年（天正18年）に結城晴朝の養子となり、結城家18代目の城主となりました。結城では、新城下町（現在の北部市街地）の建設を行いました。1601年（慶長6年）、越前国福井へ国替えになりました。	1
23	結城紬一反分（いったんぶん：着物一着分）を作るには、繭（まゆ）は約2,000個必要です。結城紬は、国の重要無形文化財に指定されています。	2
24	1907年（明治40年）、結城市に県内で初めて電話が開通しました。	3
25	3月26日、TRAINSUIITE四季島が結城駅に到着しました。乗客の方々には、結城紬の着心地体験や蔵造などの歴史的な街並みを堪能していただき、本市の無形民俗文化財である「おはやし」演奏によるお見送りをしました。	4